

第15回 夢アイデアまちづくりに関する提案

1、つながりのあるまちづくり

先日の新聞等には90歳以上が全国で200万人を突破したということと、100歳以上が全国で6万8千人ほどになったことを鑑みて人とのつながりがどこの地域においてもまだまだ乏しい事から考えました。

第15回 夢アイデア まちづくりに関する提案

～タイトル「①つながりのあるまちづくり」～

(主旨)

*超高齢化社会の中、誰もがいつかは1人になる事があります。それはどういう境遇のなかでもです。例えば、障害者、怪我、病気、介護、認知症、虐待、ドメスティック・バイオレンス、ひきこもりなど、人それぞれにとっては環境が違って当たり前です。

～対処法～

- 1、 先日の新聞には、NTT東日本（東京）では、老人ホーム等に入居する高齢者が部屋から出る時には、扉のセンサーが作動し職員が携帯しているスマートホンにメールと写真で知らせるシステムを開発しています。これはあくまでも認知症の入居者を対象として行っているものです。また、既に他の施設等ではGPSなどで対応処置をとられています。
- 2、 各町内会、民生委員、自治会、マンション管理組合の管理体制の充実。
これなどは、既に実施されている市町村はありますが、例えば、朝・昼・晩の呼びかけご挨拶、とにかくコミュニケーションを交わすことなど、近所さんへの気配り目配りをこまめにしていく。また、民生委員の活動費をせめて月額15万円ほど支給できるシステムをされてはどうか？ これは各市町村等が予算を増額してできる事です。よく安否確認で異常を知らせる連絡が入り、民生委員が駆け付けると80代～90代女性の独り暮らしの女性が脳梗塞で倒れており、何日も電話すら掛けられない状態だったというのです。如何せん、プライバシーや個人情報を重ねる風潮から訪問を拒否される場合もあるといいます。これからは特に、民生委員の役割は重要性を増していきます。単なる活動費だけのボランティア精神ではおぼつかないのです。そのあたりを各自治体は肝にめいじて発想の転換を図っていただきたいものです。
- 3、 いずれにしましても、人を孤独にさせないまちづくりが大事なのです。例えば、民生委員、町内会役員としましては、人と人をつなげるコミュニケサポーターとしての重要性を自覚してもらいたいです。